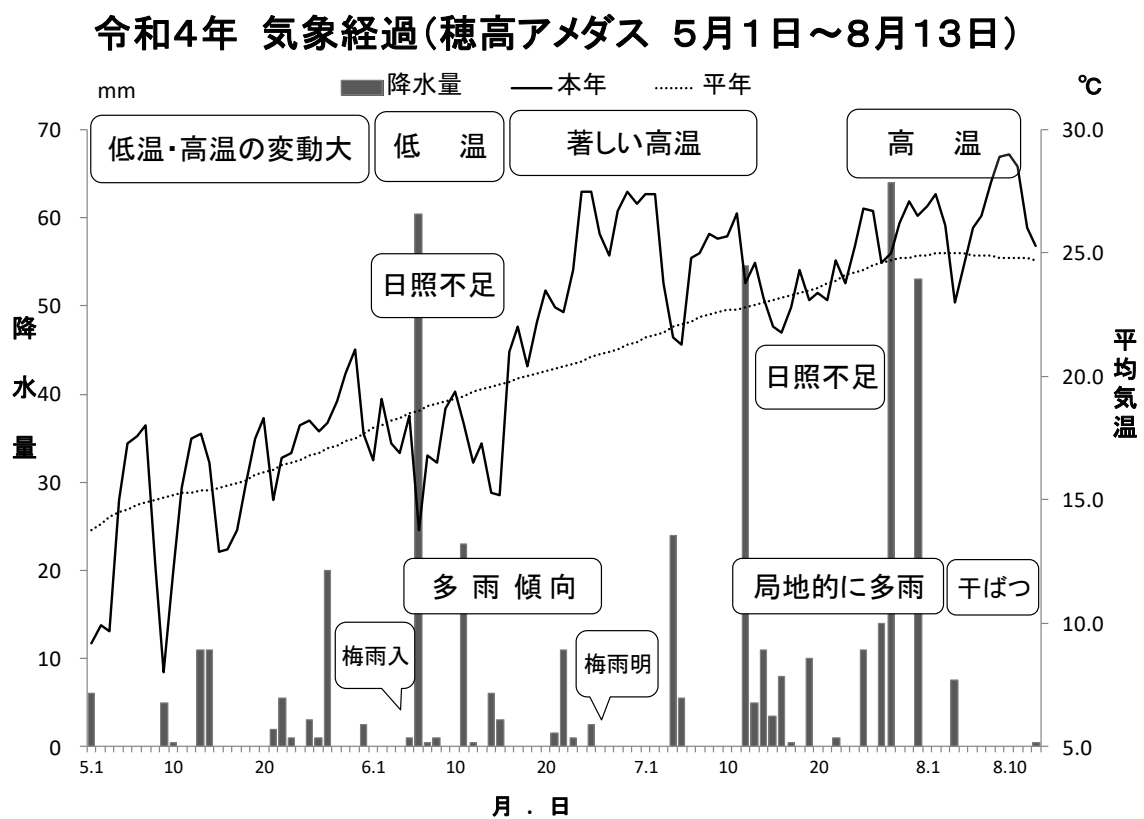


令和4年 作物技術普及情報 第16号 (水稻の生育状況・収穫開始予測等について)



1 気象状況

局地的な降雨はありますが、高温・干ばつ傾向となっています。また8月9日頃から高温で強い南風が吹いており、湿度も低くなっています。今後の気温は平年より高温が予想されています。

2 水稲の生育状況について

8月15日現在、現地（平坦地）の生育状況

- ・ 早生品種（あきたこまち、美山錦等）
5月前半植 : 登熟後期（色つきが進んでいます）
- ・ コシヒカリ
4月末～5月初旬植 : 登熟中～後期（色つきの始まった圃場もあります）
5月上旬植 : 登熟中期
5月中旬植 : 登熟初～中期
5月下旬植 : 穂揃期～登熟初期

出穂が平年より7日程度早かったため、成熟期も平年よりかなり早まることが予想されます。

なびき気味で倒伏が心配な圃場もあります。登熟は順調に進んでいるようですが、高温登熟による品質低下が懸念されます。

3 水稲の刈り取り開始予測

平坦地・5月初旬植・コシヒカリの刈り取り開始時期は9月初旬からが予想されています。また早生品種の刈り取り開始時期は8月25日頃からが予想されています。

5月15日植 標高540m の刈り取り開始～成熟期予測(8月15日現在)

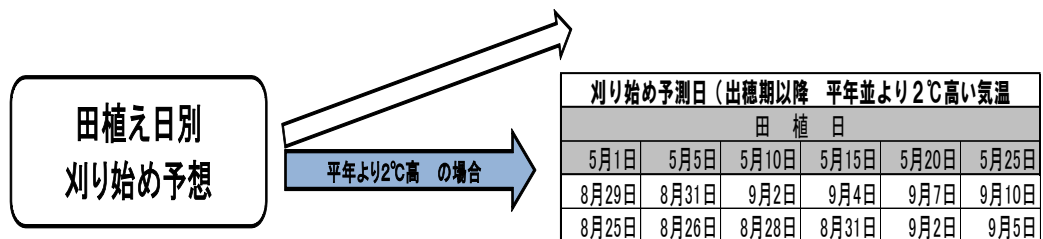
品 種 及 び 苗 質		刈り取り開始		成熟期		
		登熟期間の気温		登熟期間の気温		
		平年並	平年より 2℃高	平年並	平年より 2℃高	平年値
あきたこまち	稚 苗	8月28日	8月26日	9月2日	8月31日	9月8日
	中 苗	8月24日	8月21日	8月29日	8月26日	—
コシヒカリ	稚 苗	9月8日	9月4日	9月13日	9月9日	9月23日
	中 苗	9月3日	8月31日	9月8日	9月5日	—

今後も高温が予想されていますので、刈り取り開始予測の「高温版」も活用いただき、施設稼働の計画や収穫計画にご活用ください。

標高別・移植日別の詳細は「8月15日現在の水稻刈り始め予測(平年並み版、高温版)」をご覧ください(ホームページに掲載いたします)

【表は豊科定点圃場:標高540mの推定値(8月15日現在)です】

コシヒカリ 標高550m	苗質	推定出穂期						刈り始め予測日(出穂期以降 平年並みの気温)					
		田 植 日						田 植 日					
		5月1日	5月5日	5月10日	5月15日	5月20日	5月25日	5月1日	5月5日	5月10日	5月15日	5月20日	5月25日
稚苗	7月26日	7月28日	7月30日	8月1日	8月3日	8月6日	9月1日	9月3日	9月6日	9月8日	9月11日	9月15日	
中苗	7月22日	7月24日	7月25日	7月28日	7月30日	8月2日	8月27日	8月30日	8月31日	9月3日	9月6日	9月10日	



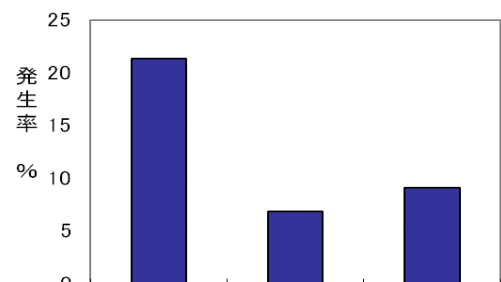
4 高温登熟障害対策について

本年の水稻は、胴割米・白未熟米の発生しやすい体質になっています。収穫間際の降雨や刈遅れで、胴割米が多発する危険な状況なので、以下の点にご留意ください。

(1) 出穂前後3週間は湛水としましょう

高温登熟による白未熟米、胴割米の発生防止のため、出穂前後3週間は、圃場に水が入っている状態としてください。

水路に水が十分あり、生育が遅れる恐れがなければ、昼～夕方に4時間程度の掛け流しもお検討ください。



水管理と白未熟の関係(2010年、農業試験場)
注) 品種あきたこまち。発生率は水口区、水尻区の平均。
湛水処理は出穂前後2週間の常時湛水、掛け流しは出穂後2週間の掛け流し。

土壌水分を確実に保持し、根の老化防止と健全な登熟をはかるため、水管理の徹底をお願いします

(2) 早期落水は避けましょう

例年より収穫時期が早まると予想されるため、落水も早めたい（早期落水）とお考えかと思われます。

しかし早期落水は、胴割米・白未熟米の発生を助長するため、落水は作業に支障のない範囲で極力遅くするようお願いします。

また、台風等によるフェーン現象で異常高温・極端な乾燥条件になると、止葉が急に枯れ上がることがあり、白未熟・胴割米の発生が助長されます。フェーンが予想される場合は、落水中でも入水（走水）をお願いします。

今年は8月9日頃から高温で強い南風が吹いており、湿度も低くなってフェーンのような天候が続いていますので、ご注意ください。

5 大豆の管理（特に干ばつ対策）

管内の大豆の生育は、6月播種で8～9葉前後で開花盛期です。7月上旬播で6～7葉前後で開花が始まった圃場もあります。7月中旬播で5葉前後です。

局地的な降雨はありますが、全体的には高温・干ばつ傾向となっています。また8月9日頃から高温で強い南風が吹いており、湿度も低くなっています。このため葉の反転、落葉などの干ばつ害を受けている圃場が増えています。

今後もまとまった降雨が期待できないと思われるので、灌水が可能な干ばつ圃場は、灌水を実施するようお願いします（灌水にあたっての注意点は、技術情報14号をご覧ください）。

灌水の効果は下記の写真をご参考下さい。

灌水による干ばつ害の軽減効果（灰色低地土 播種時期6月下旬 開花最盛期の圃場）

8月15日撮影



今後の天候によっては、まとまった雨が期待できない状況になることも予想されます。その場合は、葉がしおれていなくても、水分ストレス回避や落葉防止のため、灌水をご検討下さい。

令和元年9月のフェーンによる著しい干ばつ被害（圃場全体の落葉・株枯れによる低収・小粒化）を思い出していただき、ご指導をお願いいたします。

松本農業農村支援センター 技術経営普及課
技術経営係 谷口 岳志
電話 0263-40-1945 FAX 0263-47-6594
e-mail taniguchi-takeshi@pref.nagano.lg.jp